

子宮頸がん予防ワクチン接種のお知らせ

平成 21 年 12 月 22 日にグラクソ・スミス クライン社から子宮頸がんワクチン(サーバリックス)が発売となりました。当院のワクチン外来では、平成 22 年 3 月 2 日より接種を開始します。子宮頸がん予防ワクチン接種を電話予約される場合は、ワクチン外来がある(月、火、木、金曜日)希望日をお伝え下さい。

子宮頸がん予防ワクチンに(サーバリックス : Cervarix)に関する説明

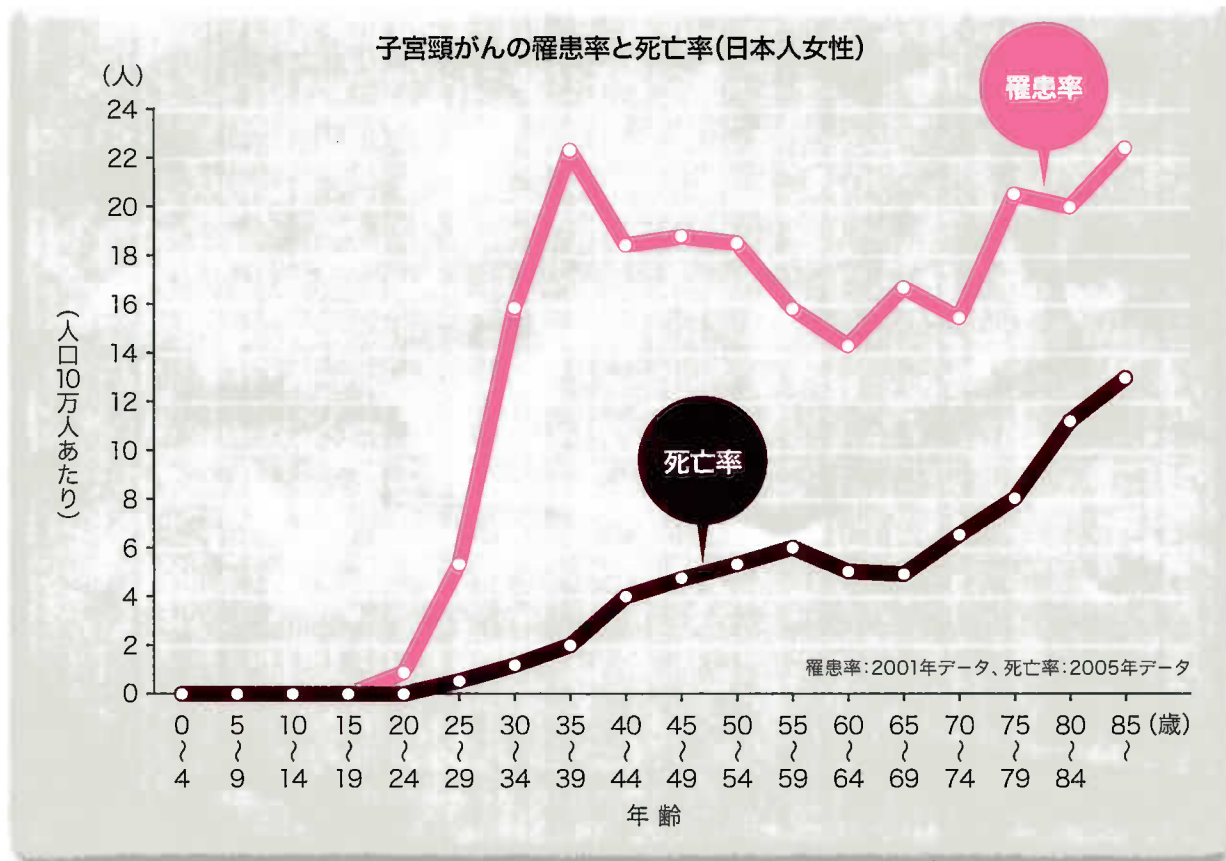
子宮がんは女性のがんでは乳がんに次いで多く、日本では年間約 8000 人(子宮上皮内がんを含めると 15000 人)が発症し、約 3500 人が亡くなっています。近年、特に 20 代～30 代の若い女性に発症率が高く(図 1)、若くして発症することが子宮頸がんの特徴で、仮に命が助かって子宮摘出せざるを得ない状況も少なくありません。また、前がん病変の段階で発見され局所的な治療で済んだとしても、早産や流産の原因になることもあります。全女性の大半の方が、性交渉を通じてヒトパピローマウイルス (HPV) に感染することが知られています。HPV に感染しても、90%以上は体内から自然に排除されます。排除されなかった一部のウイルス感染が長期間続くと、前がん状態から子宮頸がんに移行して行きます。現在この HPV は 100 種類確認されていますが、そのうち子宮頸がんを発生させる可能性があるウイルス(発がんウイルス)は約 15 種類です。サーバリックスは子宮頸がんの原因として約 7 割を占める 16 型と 18 型の HPV ウイルスに対して予防効果があるワクチンです。(この 2 つ以外にも発がん性ウイルスの予防効果があるデータも出ています)。16 型、18 型 HPV ウイルスに対して 98%の予防効果があり、さらに発がん性ウイルス(33, 45 型など)全体を含めたウイルスに対する予防効果は 70%あると報告されています。このワクチンは、性活動が始まる前、すなわち 11 歳～14 歳の間にワクチン接種を行うと、最も高い予防効果が発揮します。

皆さんが一番心配される副反応に関しては、国内の臨床試験では重篤なもの報告はなく、注射部位の疼痛が 99%、腫れ、発赤等が 70-80%、全身症状として筋肉痛が 45.3%、頭痛が 37.9%、発熱が 5.6%、蕁麻疹が 2.6%です。これらも一過性で、数日で軽快しています。

十分な効果を得るためには初回接種後、1ヶ月後に 2 回目、6ヶ月後に 3 回目のサーバリックスの接種を受ける事が重要です。サーバリックスにより 16, 18 型に起因する子宮頸がんは高率に予防できますが、子宮頸がんにならないわけではありません。20 歳を過ぎたら子宮がん検診を受けることが重要です。

日本では年間約15,000人が子宮頸がん罹患し、
約3,500人が死亡しており^{1)*}、
罹患率は20～30代で急増します

※上皮内がんを含む



国立がんセンターがん対策情報センター、人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部編)
1) 2008年人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部編)より推計